

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成28年度第6回情報セキュリティ研究講習会運営委員会議事記録

I. 日 時：平成29年1月20日（金） 15：00～17：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

III. 参加者：宮川担当理事、浜委員長、入澤委員、東委員、服部委員、西松委員、柴田委員
（事務局）井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

次年度研究講習会の方向性、計画について意見交換を行った。

- ・ 講習会と日常活動での対応を分けて考える必要がある。
- ・ 講習会では、「脅威の周知と危機意識の醸成」、「防御体制の促進」、「技術・知識の習得」、「最新動向やインシデント情報の提供」を取り扱う必要がある。
- ・ 日常活動では、ポータルでの発信、対策大学の紹介、規程などアーカイブの整理、IPA等のセキュリティ関係ニュース紹介、企業セミナー紹介などを検討してはどうか。
- ・ 平時の状態での準備不足が懸念され、ポリシーや手順などの整備が必要とされる。
- ・ 啓発活動としては、理事長学長等会議での説明は継続するとともに、経営層が関わらなければならない問題を提示しなければ認識が深まらないのではないかと。
- ・ ランサムウェアについて、ハード・ソフト含めて多くを検知しているが被害のあることから、一人ひとりの意識の向上が必要となる。センター等部門だけでは対応が限界になっており、全学的に執行部からの強制力を持って指導することが求められる。
そのためには、センターではこれ以上対応困難なリスト、例えば、業務停止・サービス不能になる可能性を提示することで、全学的な指導が求められる。
また、個人の意識改革が必要となり、どのようなことが起きているのか、財産が奪われているかなど、例えば職員講習会で説明してはどうか。
- ・ 用語の問題とした、CSIRTの単語が理解しにくい印象があり、何か対応できる言葉が考えられないか。
- ・ 各大学での取り組み実態・限界を事例として紹介してはどうか。または、インシデント対応組織の工夫について大中小モデルを提示できないか。
- ・ リスクを想定して被害に対応する合意形成をとっていくことの、大中小モデルの政策・構成を提示してはどうか。ベンチマークを活用したモデルが考えられないか。
- ・ セキュリティの在り方を規模別に政策・技術レベルで検討し、次のセキュリティ対策な何をすべきなのか、セキュリティ対策の実施計画構築を考えてはどうか。
- ・ インシデント対応研修としては、一つは規模・種別で初動対応から具体的な対処を考えること。二つはベンチマークの対応できていないことを補うためのセキュリティ対策実施計画を考えることではどうか。
- ・ セキュリティ対策についてポータルを作成し、大学が確認できるよう整備をしてはどうか。

V. 次回のスケジュール

- ・ 検討の続きは次年度に行い、委員会開催は別途調整することにした。